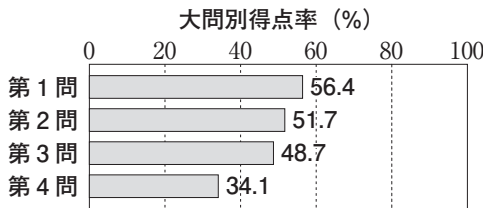
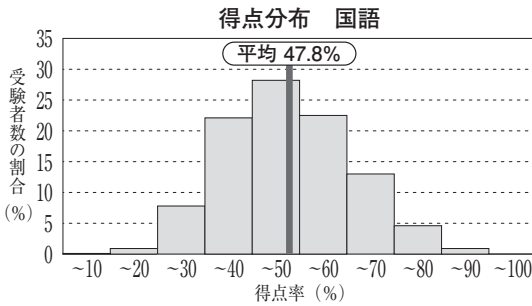


センター試験の国語の勉強を始めよう。古文・漢文は基礎知識を短期集中で身につけよう！

I. 全体講評

「第1回センター試験本番レベル模試」国語の平均点は九五・五点（二〇〇点満点）であった。これは、先月実施された「センター試験同日体験受験」の結果とほぼ同じであった。第1回ということ、まだまだセンター試験の問題・分量には慣れていないようである。センター試験の国語



は、分量も非常に多いので、たとえ、問題の難易度的には対応できたとしても、スピーディに解くことが出来ないと得点できない。学力をここから上げていくのは当然だが、1か月おきに実施される「センター試験本番レベル模試」で、ボリューム感と読解スピードも身につけていってもらいたい。

今回の各大問の得点率は上記の通りで、どの分野もまだまだ伸ばしていく必要があるが、古典分野は読解の基礎となる古文単語・古典文法、漢文の句法・重要漢字などをなるべく早く身につけよう。古典分野は知識事項を身につければ、一気に得点を伸ばすことも可能だ。逆に知識事項を身につけなければ絶対に得点を伸ばすことが出来ない分野である。ぜひ短期集中で、春休みを利用するなどして一通りは確認してもらいたい。

来年のセンター試験まですでに一年を切った。二〇一七年度は、国語は前年から大きく難化した。来年、どんな問題が出題されるかはわからないが、どんな問題が出題されても得点できる国語力を、ぜひ身につけてもらいたい。現代文も古典もそうだが、「復習と結果の分析」↓「次の段階に向けての課題の設定」↓「計画的な学習による課題の習得」のプロセスをぜひ実行してほしい。そして、「わからなかった問題が解けるように

なった！」という実感を、模試を通じて得てほしい。焦らず、着実に、ここから始めよう。

II. 大問別分析

第1問 (評論)
身近な生活での経験をじっくりと分析し推察していく力を育てていこう

二〇一七年度の第一回となる今回の模擬試験は、問4、問5の正答率が五割を切るなど、センターに対応した解き方に不慣れな受験生を惑わせたものがまだ多く、第1問の得点率は、五六・四%とやや低いものとなった。センター試験の特に評論はかなり長く、抽象的な内容の選択肢が続き、途中で息を抜く暇などない。いかに神経を緊張した状態に保って正解を導くかが勝負となる。

問1の漢字では、(エ)の「冷厳」と同じ「厳」を用いる①の「厳格」を選べた受験者が六三・七%で、他の漢字と比較してやや低かった。

選択肢を吟味する設問では、問2の正答率で六一・三%、問3の正答率で五五・五%と何とか五割を超えてはいるものの、安心することはできない。問2は「情報の量」と「情報の質」との違いを知っていれば、まず間違えなかっただろう。問3では③と誤答した受験者が多かったが、試験勉

強が「記号を形式的に操作しただけ」のものではないことは、普段の様子を振り返ればわかる。問4は正答率四〇・六％で、「事後的に出現」の意味をしつかり把握できなかったようだ。自分の選択がどんな意味や価値を持っているのかは、少し時間を置いてでなければわからないということなど、日常体験から考えてみよう。

今回、最も低い正答率になったのが問5の正答率二八・九％であった。ほかの設問がいかにか好調でも、ここで地金をはがれることになったようだ。誤答で多かったのがまず③、コピー機はコピー機自体を複製できないことなど常識だろう。つぎに①、通常の人間なら、目覚ましなどなくても朝になれば、体内時計によって目が覚めるだろう。そして④、スマートフォンによって仲間とのネットワークが広がっていくように思うかも知れないが、これは原則的には、過去に互いに連絡を取ってきたことが前提となるのだ。本文と異なる主張が見られるのは⑤で、囲碁の棋士はまったくの独力で上達するわけではない。

第2問 (小説)

選択肢中の「◎」の表現に安易に飛びつかないように。「×」な表現がないか確認して絞り込もう！

問1(イ)は、正答率が一割と非常に低かった。そして、誤答④「聞こえがよい」を八割弱もの受験者が選んでいた。④は確かに文脈には当てはまるかもしれないが、「景気(＝活気があること)」の語義をよく考えたい。問1は文脈に当てはめるよ

りまず辞書的な意味を答えるということをして肝に銘じておこう。他の二問はよく出来ていた。

問2は八割弱の正答率であったが、②と④の誤答選択肢を選んだ人も一割程度いた。どちらかを選んできた人は、「選択肢文が『滑稽』の説明になっているか」という視点が抜けていたのではないだろうか。また、②を選んだ人は「妥協」の辞書的な意味をもう一度よく考えてみよう。

問3は正答率が六割弱で出来がよくなかった。文末の表現に注目して、③と④(④が正解)に絞った人はいただろうか？ 解説にも書いたが、小手先のテクニクだけでは正答にはたどり着けない。③を選んだ人が三割もいたが、実は③と④の違いを見分ける能力こそ、センター試験が受験生に求めているものだ。③は「人を怒らせるのは自分を傷つけると同じとわかっていた」が本文に忠実で正解らしくみえるが、「父を怒らせたくなった」という部分が決定的に×である。対して④は全体的に本文そのままではないが、間違いでもない「△」の表現が用いられている。しかし、「心の迷乱」の言い換えも踏まえ、「不快」を正しく説明しているのは④である。安易に「◎」な表現に飛びつかないように注意しよう。

問4は正答率二割五分弱とさらによくなかったが、これも同じことだ。誤答④の「言い負かそうとしている」は正答選択肢③の「自分の利害だけを考慮して発言した」よりも確かに適切だが、そこだけを見て解答してはならない。どちらかには必ず決定的な「×」の部分があるのだ。

問5も正答率四割と、よくなかった。ポイント

は「かかる忌まわしい暗示」という指示語入りの表現が何かをはっきりさせることであった。

問6は二つの正解それぞれ5割前後であった。②を選んだ人も多かったが、こういった内容合致問題は本文の中に反例がないかよく探そう。

正解を確実につかめるようになるために、本文・選択肢文の細かい部分にまで気を配って読んでいくトレーニングを続けていこう。

第3問 (古文)

語彙や文法などの正確な知識に立った解釈を心がけよう！

『のせ猿草子』から、玉世の姫に恋思いをするこけ丸殿が、あなか殿に打ち明ける場面である。得点率は四八・七％であった。

問1の語釈問題は、(ア)は願望の終助詞がポイントで、正答率七割を超え、(イ)も頻出語「ことわり」がポイントで、六割近い正答率があった。一方、(ウ)は謙譲語「参らす」に苦戦したようで、約三割の正答率であった。敬語は種類とともに正確な訳もあわせて覚えよう。

問2は「に」の識別問題で、正答率は七割近かった。誤答で多かった①は、形容動詞の活用語尾を格助詞にしたもので、「うげに」という形容動詞の典型は記憶しておきたい。

問3は、本歌をふまえた会話の意味を捉える問題で、正答率は五割であった。自分の経験をふまえて同情するBの歌は読み取れていたが、Aの歌の隠しようのない恋心が難しく、誤答①がやや多かった。

問4は、みなか殿が仲介を請け負った理由を問う問題で、自分の娘が玉世の姫に仕えているのが今なのか、かつてなのかで正答②と誤答③とで解答が割れ、過去であったとした誤答④のほうに選択が集まった。物語は特にいつ誰が何をしているのか、時系列を整理したい。

問5は、引用された小野小町の人物像を問う問題で、正答率は三割を切り、誤答も分散した。「いたづらになる」が「死ぬ」の意であり、冷たい対応をしたことを読み取るが、逆の対応と誤解した解答は三割を超えた。慣用句や打消などに注意し、該当箇所の逐語訳を心がけよう。

問6は内容合致問題で、正答率は五割を超えた。④は、選択肢後半で姫君が積極的に受け入れる内容の和歌を詠んだことになり、本文とは合致しない。選択肢は和歌も必ず照合をしよう。

第4問 (漢文)

語彙・句法を学習し、選択肢吟味の着眼点に気付けるようになろう！

『史記』から、漢の韓信が、敗戦国趙の広武君に対面し、燕と斉を討つことの可否を相談する文章からの出題。得点率が三四・一%と低く、漢文学習のスタートが切れていないようだ。

問1の語の意味と熟語の問題は、(ア)の「謝」は正答率一割強、(イ)「帰」は三割を切った。特に「ことわる」の意だった「謝」は、「あやまる」の意の①③に誤答が分散し、あわせて六割をこえてしまった。頻出語なので模試の解説集をよく見て、用法を覚えておこう。

問2の語の意味の問題は、(ア)「足下」、(イ)「以爲」でいずれも頻出重要語である。(ア)は二割を切り、(イ)は四割であった。知っていればサービスキ問題だが、特に(イ)は「おもへらく」という読みも馴染みが薄かったようである。

問3は、韓信に相談された際の最初の広武君の反応を問う問題で、直前の対句を参考にする。正答率は二割程度で、誤答④は正答率を超えて三割であった。「不可」を不可能と考えたようだが、国が減んだ者にそもそも地位はない。

問4は、百里奚の話を引き合いに、進言を聞くか聞かないかで、国の存亡が決まることを説明する問題である。正答率はやっと四割で、誤答は分散した。百里奚自身の内容で終わっている誤答①・②・③の合計で四割以上であった。話し手がなぜ引用するのか、会話の意図を考えよう。

問5は「侍する」の内容と、可能の「得」に注意して内容説明する問題で、可能は正しい①・②・③に解答は分散した。「侍する」の意味がポイントとなるが、「目の前にいる」と解釈した正答②は三割強にとどまった。

問6は、問3で辞退した後、答えることにした広武君の謙遜を読み取る問題。意見を述べても採用されないのではないかとする②への誤答がやや多かった。

問7は、燕も斉も討つべきではないとする広武君の意見を読み取る問題。結論なので必ず読み取りたい問題であるが、四割を切った。斉を先に討つべきとした②への誤答が多かったが、討つ順番の話はしていない。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆現代文は、語彙を増やし、センターレベルの文章に対応できる言葉の力を身につけよう！

現代文では学習についての認識を正しく持つことが大切である。漢字と語句は必須の課題であり、軽んじてはならない。読解では思い込みや自己流の勝手な想像を排した読みが必要である。

◆古文と漢文は、基本的な古語と文法、漢文の句法の学習を早めに、ひととおり済ませよう！

基本的な知識事項が問題読解のカギになることは今回の模試でも如実に表れている。必要な知識の習得は古文・漢文の重要課題であることを認識し、具体的な目標とスケジュールに即した学習を着実に進めることが何よりも大事である。